

愛媛の教員のために必要な「日本語学入門」の授業を目指して

国語教育講座・佐藤栄作

1. 授業の基本情報・概要

教育学部は教員養成に特化したため、「日本語概説」は、学校教員を目指す学生だけが受講する「日本語学入門」の授業となった。もう「国際」を意識する必要がないかといえ、そうではない。「日本語学入門」が担うことの第一は、母語である日本語を客観的に見直すことである。母語である日本語を客観視できなければ「国語の特質」は理解も実感できないからである。本授業は、本学部へ入学したばかり学生に、高校までの国語では、ほとんど扱わない音声・音韻の領域をぶつける。「音声言語に関する」内容は、免許法上必要と明記されている。日本語の音声・音韻を学び、そこから文字・表記、そして他の領域につなげることで、国語教師にとっての基盤となる知識・技能が身に付き、思考する力が鍛えられる。

本年度の受講生は、48名、アンケート回答者は37名だった。

2. COC+を意識した授業の取組

本年度は、母語からさらに一步踏み込んで母方言にまで進めたいという思惑があった。愛媛出身者にとって母方言である愛媛方言の音声・アクセントを知ることが、自らの言葉を振り返る第一歩になると考えるからである。標準的な日本語音声の説明するのではなく、一つ一つの事象について、自らの内省で確認し、東京方言と母方言との違いを意識させるようにした。全国の方言アクセント分布を示したとき、愛媛方言のアクセントのバラエティーに受講生は驚き、県内での地域差の体験を思い出していた。これを出発点として愛媛の教員としての自負と自信を育めればと考えるのである。

3. 授業評価の内容

DP対応の学生授業評価アンケートの結果を、以下に挙げる。(1～4は評価)

	1	2	3	4
DP 1 知識	14	22	01	00
DP 2 技能	11	24	02	00

DP 3 思考・表現	09	24	02	02
DP 4 主体的学習・社会貢献	10	23	02	02
授業外学習課題	0.95	時間		
授業外学習自発	0.43	時間		
自発的読書	0.29	冊		
自発的活動	0.07	件		

(上の4項目は旧DPの5名を含む)

どのDPも評価2が多かった。授業の目的からすれば、DP1, 2について、評価1がもっと多くならなければならない。DP3についても、授業をうまく実施できれば、もっと評価1が多くなるはずである、またDP4についても、主体的学習が実施できていれば、評価1を増やせるはずである。DP3に評価4が2名居たことも反省点である。

毎回授業終了時に記入してもらったコメントからは興味関心が高まっているように見える。しかしこの結果から見ると、それが行動につながっていない。一瞬の驚きをどう深めて身に付いたものにしていくかが大きな課題である。母方言を意識化させようとしたのに、それに関わる推薦図書や面白いブログ、HPなどの紹介をしなかった。授業時間内で、愛媛方言を何時間も取り上げることは難しいからこそ、そういう情報を出すべきだった。これが大きな反省点である。

4. 総括

本授業は、教員免許に必須の科目である。「一般的包括的」内容が特に求められる。少なくとも「音声言語に関する」内容と「文章表現に関する」内容を含むことが明記されている。そうしたことと、愛媛の教員として母方言を知り、そこから出発してもらいたいということとを両立することは、時間の制約からなかなか難しい。内容の精選とバランスを取って、必修にふさわしいものにしなければならない。と同時に、身近な言葉、母なる言葉を意識化し、「国語の特質」を理解できる教員になるための授業にしたいと思う。

自主的学習、授業外学習へ受講生を誘えるような授業を次年度こそ実現させたい。